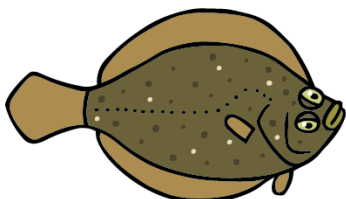


マコガレイ（東京湾）



- ・ 東京湾では内湾から内房海域で、底びき網、刺網で漁獲される。
- ・ 産卵期は冬季で、湾奥、神奈川県沿岸、内房などに産卵場があり、湾奥が主産卵場と考えられている。
- ・ 1991 年から種苗放流が行われている。

資源評価

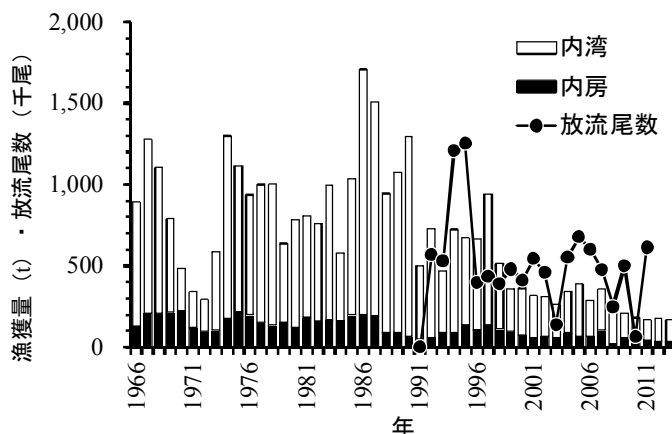
水準：低位



動向：増加



漁獲量

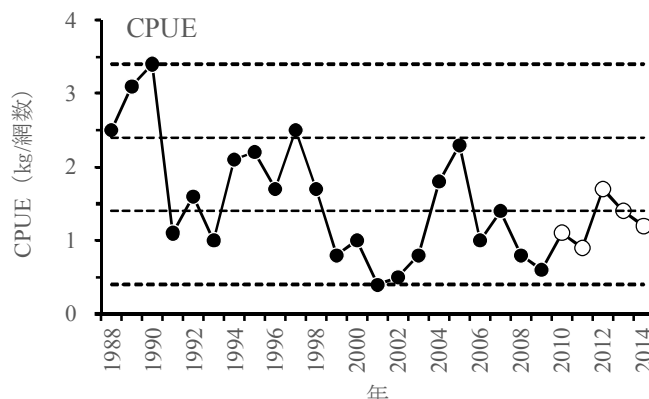


かれい類漁獲量（千葉農林水産統計年報）と放流尾数の経年変化

東京湾におけるかれい類の漁獲量は、1970 年代まではイシガレイ主体で、その後、マコガレイ主体となったと考えられている。1980 年代後半～1990 年代前半に 1,000t を超える水揚げがみられていたが、近年は 200t 前後で低迷している。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、底びき網の操業日誌から集計した CPUE（1 網当たりの漁獲量）で判断した。
- ・ 2014 年の資源水準は低位、最近 5 年間の資源動向は増加だが、最近 3 年は減少傾向。



底びき網の標本漁船によるマコガレイの 1 網当たり漁獲量 (kg/網 ; CPUE) の経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 東京内湾の底びき網では、休漁日の設定による漁獲圧の抑制・産卵期の保護、研究センターとの稚魚分布共同調査、稚魚保護のための禁漁区設定、種苗放流など漁業者による自主的な資源管理が行われている。